

年頭のごあいさつ

勇気と努力をもつて  
積極果敢に町づくり

町長 齊藤 譲



新年明けまして おめでとうございます  
平成四年の新春を迎え、町民の皆様のご健康とご多幸を心から祈念申しあげます。

ところで、昨年は、衝撃的な湾岸戦争で幕を明け、八月には予想もなかったソ連共産主義連邦の崩壊と混乱など、まさに世界は揺れに揺れた激動の一年でありました。

国内的にも、湾岸戦争をめぐる日本の貢献のあり方が、大きな議論を呼び一国平和主義が世界各国から指弾を受け、いわゆる「PKO法案」が国会で議論されるに至ったことや、政治改革法案をめぐる与党内の足並みの乱れと、政府の指導力の欠如によって、海部内閣が自ら幕を引き、後を襲った宮沢内閣も、この二つの重要案件の陰をいまだひきずり苦慮していることは、ご承知のとおりであります。

更に、これに加えて、未曾有の好景気も、金融、証券不祥事の露見と共にまるで泡が弾けたように、急速にしほみはじめ、景気対策が国内の緊急課題として浮上してきております。また懸案のガット交渉の中で迫られる米の自由化への対応問題も先行の不安に拍車をかけております。

このように、昨年は国の内外共に、文字通り激動を極めた一年でありました。

しかしながら、当町にとっては、極めて総りの多い一年であったと思っております。当町はご承知の通り、いま活力と調和のタウン計画を指針とし、二十一世紀にむけた町づくりを急いでおります。

この計画の主要な施策のうち、東陽病院の全面改築移転が成ったこと、また、企業の誘致の先駆けとなるティヒュー株式会社工場及び研究所がいずれも完成をみたことに加え、何よりも重要と位置づけている篠本地区への工業団地造成が念願通り県企業庁によって、正式に事業化が決定し、用地買収に着手し得たことは、昨年の最大の成果であります。

また、一方では他市町に先駆けて、「高齢者生きがい創生事業」も動き出すなど、力強く町づくりが動きはじめた一年でもありました。

これも偏に、県当局のご高配をはじめ、町民の皆様のおたかいかいご支援の賜であり心から感謝を申し上げます。扱て、今年はこの基調にそって、各種施

策を推進することになるわけですが、ご承知の如く国内の景気は、予想以上に落ち込む心配があり、楽観は許されないところでもあります。

しかし、私はこの状況を厳しく認識しながら、篠本工業団地及び県道バイパス用地の買収促進をはじめ、継続している台地先の町道改良事業、宮川農免道路新設事業、尾垂地先町道改良事業を、積極的に推進してゆく決意であります。

又本年からは新たに東陽地区への図書館、スポーツ施設、白浜地区への多目的スポーツ施設、尾垂球場の整備事業にも着手をする予定であります。

南条地区の海老川沼周辺の住宅地の造成についても、現在更に進めている調査結果を得た段階で、地権者をはじめ関係者へのアクションをおこしてゆきたいと考えております。

今年二月には、「光スポーツ公園」が完成をし、供用を開始するわけですが、老若男女を問わず、多勢の皆様にご利用いただけるよう、運営面にも十分配慮し、名実共に誇れる公園に育ててゆきたいと思っております。

いづれにせよ、今年は今町にとっても、厳しい正念場となりそうです。町民の皆様のお力添えをお借りし、私は勇気と努力をもって積極果敢に町づくりに挑んでいく覚悟を、茲にお誓い申しあげ、年頭のごあいさつといたします。